

作文への意欲を高めるために

—— 動機づけの面から ——

三島郡与板町立与板小学校 児 玉 英 男

I 研究主題設定の理由

- 作文は児童にきらわれるものの一つであるようだ。

教室で、「作文を書こう。」と言うと、「いやだなあ。」という第一反応が返ってくる。その原因を調査してみると、おもに次のようなことがあげられる。

○ 書くことがないから（16名）

○ うまく書けないから（23名）

○ 文章がへただから（31名）

（対象6年生 38名）

「作文」＝「むずかしいもの、めんどくさいもの、いやなもの」といった先入感念があり、固定観念にさえなっているのではないかと心配させられる。作文に対して、喜んで書きたいという気持ちを起こさせることができないものだろうか。（児童の実態から）

- 従来、書く意欲のある子どもに育てようと考えて、主題設定、取材、構想、推考に力を入れて指導してきたが、依然として、作文に対する積極的な態度は見られなかったと反省している。

「なにを」「どのように」書くかだけにとらわれて、「なんのために」書くのかの指導に欠けていたように思われる。それでは、いつまでも「書かせられる作文」であって、「書く作文」にはなっていなかったのだろう。（指導の反省から）

以上の理由から、児童を意欲的に作文に立ち向かわせるために、この主題を設定した。

II 研究のねらい

書く意欲を喚起するために、記述前の指導では、目的意識を高めることがどのような効果があるものかを追求したい。

III 研究の仮説

作文を児童の側に立って考えるとき、「作文の心理過程」として、次のように言われている。

（文献1）

- | | |
|------------------|-------------------------|
| 1. 書く面への適応の過程 | ア. 書こうとする必要を自覚する。 |
| | イ. 意志の力で、書く場面へはいろいろとする。 |
| 2. 考えをまとめる過程 | ウ. 話題を選ぶ。 |
| | エ. 中心思想や立場を選ぶ。 |
| | オ. 材料を選ぶ。 |
| | カ. 材料をまとめる。 |
| 3. 考えの言語表現の過程 | キ. ことばを選ぶ。 |
| | ク. 文や段落を作る。 |
| | ケ. 文体や様式を選ぶ。 |
| 4. 考えの文字表現の過程 | コ. 必要な文字を書く。 |
| | サ. 文字を選ぶ。 |
| | シ. 句読点を正しく使う。 |
| 5. 読み手の反応を予想する過程 | ス. 発表の場面を予想して、書き方を調節する。 |
| 6. 反省の過程 | セ. 書いたことに対して推考する。 |

上記の過程の中で、書く意欲を高めるために、ウの「話題を選ぶ」以降のそれぞれの過程で、くふうしなければならないことは、数多くあると考えられる。しかし、それらはすべて、「書く面への適応の過程」の上に立ってこそ、その効果を発揮するものだと考える。つまり、「書こうとする必要をしっかりと自覚させ」「書く場面へはいろいろとする意志の力を強めて」おくことが不可欠の条件といえるのではなからうか。

作文を書かせる場合の動機づけとして、「なんのために書くのか」という目的意識を明確に持たせ、「書かずにいられない」「書きたくてたまらない」という必要感にまで高めることが大切なのではないか。つまり、表現意欲を持って、心の底から押し出されてくるものを文章に表現させることが大切だと考える。

作文に対して、意欲的に立ち向かわせる基盤となるものは、目的意識を明確に持たせることであると考える。

IV 研究の計画と方法

6年生の3学級に、9月下旬に「廃品回収」を素材にして、動機づけを三通りに変えて、作文に書かせ、その製作過程と作品を比較検討する。

動機づけの三通りとして、

- | | | | |
|--------|-------------------------------|--------|------|
| ア. A 型 | ①「廃品回収について作文を書きましょう。」 | ②構想メモ、 | ③記述、 |
| | ④自己批評の過程をとる。 | | |
| イ. B 型 | ①廃品回収について何を書きたいかをはっきりさせる話し合い。 | | |

②構想メモ， ③記述， ④自己批評の過程をとる。

ウ．C型 ①この作文は何のために書くのかについての話し合い。 ②構想メモ，
③記述， ④自己批評の過程をとる。

3 学級とも作文力が同等であるとは考えられない。そこで，できるだけ条件を整備するという意味で，各学級から10名ずつ選び出して，結果をまとめることにする。その選出にあたっては，

①知能指数の同程度の者 ②国語科総合学力中位の者 ③作文評価中位の者
④男女各5名ずつ 等を考慮した。(A型10名，B型10名，C型10名)

比較検討の観点

- ア．構想を立てる前に，書きたいと思った者の数
- イ．構想メモを書くのに要した時間
- ウ．作文を書くのに要した時間
- エ．作文の総字数
- オ．主題の明確さ

調査するための配慮

1. 話し合いから自己批評までの時間は3時間(120分)を目やすとすることを，あらかじめ知らせておく。
2. 構想を立てる前に，書きたいと思ったものは，構想メモ用紙に○印をつけさせる。
3. 構想メモを書くに要した時間は，メモ用紙に記入させる。
4. 作文を書くに要した時間は，作文用紙の終わりに記入させる。

V 指導の実例(三通りの指導経過の概要)

A 型	B 型	C 型
1.「廃品回収」と板書した。 2.廃品回収について作文を書こう。	1.「廃品回収」と板書した。 2.①廃品回収について作文を書くとしたら，何を書きたいか。 ②児童に話し合わせる。 ・廃品を持ってくるとき，手が冷たかった。 ・近所の廃品も持って来た。 ・今回はがんばって，たくさん持ってくる。等 ③全員，書きたいことがはっきりしたことを確認する。 (約20分間)	1.「廃品回収」と板書した。 2.①廃品回収のお金で何を買ったらよいと思うか。 ②児童に話し合わせる。 ・学校で飼育する動物 ・金魚 ・体育用具 ・低学年用の遊具 等 ③今まで，何を買いにかについて，話し合いで決めていたが，今回は作文に書いてもらう。その作文によって，

		このクラスの意見をまとめよう。(約20分間)
3.調査のための配慮をした。	3.調査のための配慮をした。	3.調査のための配慮をした。
4.いつものように構想をしっかりと立てて書こう。	4.いつものように構想をしっかりと立てて書こう。	4.いつものように構想をしっかりと立てて書こう。
5.構想メモ用紙配布	5.構想メモ用紙配布	5.構想メモ用紙配布
6.構想の立った者から、作文用紙に記述。	6.構想の立ったものから、作文用紙に記述。	6.構想の立ったものから、作文用紙に記述
7.記述の終わった者から自己批評。	7.記述の終わったものから、自己批評。	7.記述の終わったものから、自己批評。

※「構想メモ」の形式例

組	み	立	て	中	心	題	名
お		な	は				
わ			じ				
り		か	め				

○各学級とも、同形式のものを以前から使用している。

Ⅵ 結果の考察と反省

三通りの指導経過の概要に表われた調査結果

項	目	A 型	B 型	C 型
1.構想を立てる直前に、書きたいと思った者		1 名	5 名	8 名
2.構想メモを書くのに要した時間(平均)		2 9.3 分	1 6.6 分	2 0.2 分
3.作文を書くのに要した時間(平均)		3 6.6 分	4 7.8 分	5 4.2 分
4.作文の総字数(平均)		5 3 4.5 字	6 1 1.1 字	7 0 5.6 字
5.主題が明確であると判断されたもの		3 編	7 編	8 編

1. 構想を立てる直前に、書きたいと思った者

記述前に、話し合いなしで、いきなり書かせたA型には、10名中、1名しかいないのは当然のことであろう。C型は8名であったが、話し合いでも、「自分はこれを買いたいと思っているのだ。」「自分の考えをぜひみんなにわからせたい。」という意欲がありありと見受けられた。B型はそれほど顕著な雰囲気は見られなくて、5名であった。

この調査では、自分たちの学校生活を楽しくするための品物を何にするかという、児童にとって、直接関連した問題であるため、これほど意欲が高まったと考えられる。

2. 構想メモを書くのに要した時間

A型が一番長く、B型に比べて2倍近くかかっている。これはいきなり構想メモを渡されて、「さて、どうしようか。」と迷っているわけで、いたしかたのないことであろう。

B型がC型よりも短いのは、主題について話し合っているときに、すでに頭の中に「どういうことを、どんな順序で」と大体はでき上がっていたのではないだろうか。

主題について話し合うことは、構想を立てる上に役立っていると見ることができるだろう。

C型は、何が欲しいのかを訴える気持ちが強く、構想には結びつかないのだろう。

3. 作文を書くのに要した時間

時間の長さでは、A型、B型、C型となっているが、一分間で書く字数で比べると、ほとんど同じになっている。

A型は構想で時間がかかっているが、作文を書く速さはB型C型と同じ位である。

B型は構想は速く立てているが、作文を書く速さはA型C型と同じである。これは、構想は速くまとまっても、その構想に従って書き進めるスピードには、影響を与えないもののようである。

C型は構想に時間をかけたが、構想が決ってしまうと、書く速さは他と変わらないものようである。

4. 作文の総字数

総字数は、A型、B型、C型の順になっている。「長文」＝「良作文」とは言えないであろうが、長い時間継続して作文をして、長文にしていくということは、やはり意欲が高まっていなければ、できないことだと思う。

C型の学級では、自分の意見をみんなにわかってもらい、自分の欲しいと思っている品物を買おうという、一種の熱気のようなものが感じられた。これが、長文にしていた原因になったのではなかろうか。

5. 主題の明確さ

まず、題名がどのように表現されているかみよう。

A型では 廃品回収……6

廃品回収について……4

B型では 廃品回収……4

廃品運び つらかった廃品回収

一万円を目ざして

今年の廃品回収

廃品回収と一年生

廃品回収の思い出

C型では 廃品回収……2

廃品回収について

廃品回収で何を買うか……2

廃品回収で買うもの

廃品回収で買いたいもの……2

植物園をつくらう

集まったお金で何を買うか

A型は「廃品回収」という板書に引きずられたままの題名に終わっている。

B型は主題について話し合っているので、主題がなんであるかを予想させる題名が多いのだろう。

C型には抽象的な題名がB型よりも多い。しかし、本文から、主題が明確であると判断されたものは、B型よりも多い。これは、C型には、自分は何が欲しいかという主題ははっきりつかまれているけれども、主題についての話し合いがなされなかったために、題名に主題を反映させることに意を注がなかったと見ることができよう。従って、板書のままの題名が多いのだろう。

A型には、いわゆるだらだら文が多く、主題のはっきりしないものが多いのは、構想と関連して、書く意欲が低いためと言えるだろう。

- 以上のような結果から、記述前の指導の大切さが再確認された。その指導の中で、「なんのために書くのか」を明確に把握させることは、構想には直接結びつかないが、書く意欲を高めることや主題のはっきりした文を書かせるためには、ぜひとも必要であるといえるだろう。

「なにを書くのか」「どのように書くのか」の指導以前に、「どういう目的で」「主として、だれを読み手と想定して」書くのかを明確に意識づけることは、大切なことだと言えるだろう。

- このささやかな調査の中で、今まで一般的に言われてきたことが、ある一面から確認されたように思う。しかし、反面不備な点も多い。

例えば、各学級から抽出した10名の児童は適当だったのだろうか。作文力を構成する要因を把握しなければならないと思う。

また、目的意識と主題意識とは、本来切り離すことができないものなのであろう。その本来切り離すことのできないものを、二つに分けて指導したところに無理があったのではないか。

さらには、書く意欲というものを、時間や字数で調査しようとしたことに無理はなかっただろうか。

以上のような問題点を解明して、さらにもっと一般化できるような調査研究を重ねて、作文好きな子どもにするにはどうしたらよいかを、より多角的な面から研究してゆきたい。

参考文献

1. 国文学 解釈と鑑賞(33-14) 至文堂
2. 作文の学習指導 文部省